



甲賀ポン蔵
©2008 甲賀市工業会

このコーナーでは、甲賀市工業会に加盟されているものづくり企業を紹介していきます。

甲賀市工業会
〒518-0009 甲賀市水口町水口6053番地1
TEL 0748-63-4087

No.49

信頼される品質のミニショベルを世界へ 株式会社日立建機ティエラ

http://www.tiera.co.jp/
DATA
設立/昭和24年 従業員数/650名
所在地/水口町笹が丘1番地2
☎62-6431 ☎63-8434

当社は、日立建機グループのミニショベル生産の主力工場です。
設計から製造までを一貫して行っており、月に約1200台の生産台数を誇ります。現在では、製品の8割近くをアメリカ、ヨーロッパを中心に全世界へ輸出しています。
一台ずつお客様の用途に合わせた製品を
皆さんも下水道の工事などで当社の製品を目にされたことがあると思います
が、ミニショベルは狭い現場での作業に威力を発揮します。

28種類あるショベルの基本型にお客様の用途に合わせた性能を加えたり、一から設計に携わったりと、オーダーメイドとして一台ずつ丁寧に製作しています。
ほかにも地下空間や林道で、また草刈り機などとしても幅広く活躍しています。

品質重視のものづくり

当社は、お客様に満足され、信頼される品質重視のものづくりに取り組んでいます。
建設機械という性質上、どのような



お話を伺った小倉センタ長

使用方をしても壊れない製品を作らなければなりません。また、全世界で使用されるため、高地や砂漠に近い場所など、あらゆる環境に耐える品質が求められます。
当社の加工システムや技術のほか、厳しい耐久試験により実現しています。今後は、海外での生産も視野に入れています。社会と価値観を共有し、グローバル企業をめざしていきたいと思っています。

(開発生産本部 滋賀生産センタ長 小倉克己氏談)



製品の一例(ミニショベル)

●甲賀市の将来像

「人 自然 輝きつづける あい甲賀」

- 生活の安心感をみんなで育てる
- 自然環境を大切に、暮らしの豊かさにつなぐ
- 安全で快適な生活の基盤を整え、まちの活力を高める
- 地域の特性を活かし、元気な産業を伸ばす
- たくましい心身と郷土への誇りをもつ人を育てる

甲賀市総合計画基本構想

●今月の納税等

- 国民健康保険税(1期)
- 保育料
- 介護保険料(1期)
- 水道料金・簡易水道料金

納期限は4月30日(火)です
市税等の納付には、便利な「口座振替」をご利用ください。

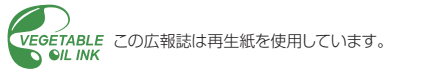
広報 あいこうか 2013年4月15日号
[No.188] 2013.4.15発行

- 編集・発行
甲賀市役所
〒528-8502 甲賀市水口町水口6053番地
☎0748-65-0650
☎0748-63-4554
- 甲南庁舎(甲賀市甲南町野田810番地)
【上下水道部】
☎0748-86-8000
☎0748-86-8032
【教育委員会】
☎0748-86-8002
☎0748-86-8380
- 市民窓口センター(甲賀市水口町水口6053番地)
☎0748-62-1621
☎0748-63-4086
- 土山地域市民センター(甲賀市土山町北土山1715番地)
☎0748-66-1101
☎0748-66-1564
- 甲賀大原地域市民センター(甲賀市甲賀町相模173番地1)
☎0748-88-4101
☎0748-88-3104
- 甲南第一地域市民センター(甲賀市甲南町野田810番地)
☎0748-86-4161
☎0748-86-8029
- 信楽地域市民センター(甲賀市信楽町長野1203番地)
☎0748-82-1121
☎0748-82-3415
- ※上記4つの地域市民センターは、旧支所の地域市民センターで、従来の支所機能を有します。

「広報 あいこうか」がホームページでもご覧いただけます！
甲賀市ホームページ

<http://www.city.koka.lg.jp/>

「広報 あいこうか」の名称は市民憲章のそれぞれの頭文字を並べてできる「あいこうか」から名付けています。市民憲章とともに皆さんに親しまれる広報紙をめざします。



この広報誌は再生紙を使用しています。

お知らせ

広報課では、今年度に「であい・こうか八景」をテーマにしたフォトコンテスト(プロ・アマ問わず、撮影地は市内、縦版を予定)を予定しています。

詳細につきましては、決定次第広報紙およびホームページ上でお知らせしていきますので、よろしく願います。



編集後記
広報紙づくりに携わり、2年が経ちました。同時にこの欄に描くイラストも24枚目を数えます。
毎月その月の心に残ったものや季節の花などを描いており、見返すと色んな思い出がよみがえってきます。
きっかけは、特技を尋ねられたことでした。周囲からは続けられるのかという声もあったのですが、今のところ欠かさず描いています。
これからも文章だけでなく絵でも思いを伝えていきたいと思っております。